

# 命の尊さ 生徒が伝える人形劇

## 四日市・北星高ボランティア部員

## 菟野で14日

交通事故で高校生の息子を失った母親の無念さと、家族が立ち直っていく様子を通じて命の尊さを訴える人形劇を、四日市市の県立北星高校のボランティア部員たちが披露する。定時制で学ぶ生徒たちは、自らの生い立ちや経験から命の大切さを誰よりも感じている。

### 被害者を支援

犯罪や交通事故などで家族を亡くした人たちを

支援する「いのちの言葉プロジェクト」と「みえ犯罪被害者総合支援センター」が、菟野町町民セ



人形劇の稽古をする、北星高ボランティア部の(左から)屋地絨之さん、川野優希さん、大崎志保顧問、四日市市茂福

## 定時制の仲間 輝いて自分探す場に

ンターで14日に開く「第6回いのちの灯り展&ミニコンサート」が、人形劇を披露する舞台だ。演目は「しあわせの種」。文化祭で漫才を披露するほど明るかった息子を事故で亡くした東員町の鷺見三重子さんが脚本を書き、2017年からのいのちの言葉プロジェクトのメンバーによって演じられてきた。

### 身近な人思う

人形劇では、事故や事件で家族を失った全国の人たちの思いも紹介される。感銘を受けた北星高校のボランティア部員たちは、3年前から文化祭などで人形劇を披露する。

今年2月に入部したフイリピン国籍の3年生、屋地絨之さん(18)は中学時代、精神的に追い込まれた同級生に声を掛けられなかったことを、今でも悔やんでいる。

「人が生きていくというところは、実は奇跡なのかもしれない。普段から身近にいる人たちを大切に

### 詩や作文 コンサートも

「第6回いのちの灯り展&ミニコンサート」では、遺族を思いやる詩の朗読などを地元の高校生らが担う。

県立いなべ総合学園高校の放送部員が詩を朗読するほか、警察庁の「『大切な命を守る』全国中学・高校生作文コンクール」の高校生の部で、文部科学大臣賞に輝いた北星高校4年の杉本実希さんが受賞作を読み上げる。

また、県立菟野高校と県立朝明高校の吹奏楽部と、シンガー・ソングライター「あつ」さんによるコンサートもある。主催者の鷺見三重子さんは「高校生が被害者支援のイベントの中心になることは珍しいと思う。生徒たちの力を借りながら命の大切さを広く訴えたい」と話す。

入場無料。問い合わせはいのちの言葉プロジェクト事務局(0594・76・7338)へ。

### 福祉にも関心

高校入学とほぼ同時期に入部した3年生の川野優希さん(19)は、幼い頃から引込み思案だった。部活を通じて人と接することの楽しさに気がついたといい、今では、いのちの言葉プロジェクトの活動にも加わり、地域のイベントや四日市内の小学校などで人形劇を披露している。

身近に障害のある人がいることから、障害者福祉に関心があるという川野さんは「大切な人の命がいつまで続くかは分からない。人形劇から改めて命の大切さを感じてほしい」と話す。

定時制で学ぶ高校生の中には、それぞれ課題や困難を抱えて入学する生徒も少なくない。同部の顧問で、プロジェクトの立ち上げにも関わった大崎志保養護教諭は「そうした生徒たちが人形劇を担うことで輝き、『自分たちの種』を探すきっかけになれば」と話している。(安田琢典)